

ブラジル福井村入植50周年 記念訪伯団視察報告書

日 程 平成24年8月2日（木）～8月9日（木）

訪問地 ブラジル連邦共和国 サンパウロ州および
リオデジャネイロ市

ブラジル福井村入植50周年記念訪伯団

団 長 福井県議会副議長 松井拓夫

団 員 福井県議会議員 前田康博

〃 福井県議会議員 仲倉典克

〃 福井県議会議員 玉村和夫

〃 福井県議会議員 小寺惣吉

随 行 総務課主任秘書 大嶋 徹

ブラジル視察日程

日 時	日 程
8 月 3 日 (金)	11:00 日本移民先没者慰霊碑参拝・献花 12:00 サンパウロ州議会表敬訪問 16:00 旧コーヒー取引所視察（サントス市） 17:30 日本移民ブラジル上陸記念碑視察（サントス市）
8 月 4 日 (土)	8:00 コオペルコチア・アスレチッククラブとの親善交流 12:00 ブラジル福井県文化協会主催歓迎会 15:00 ブラジル日本移民資料館視察 16:00 サンミゲルアルカンジョ市へ移動
8 月 5 日 (日)	9:00 ブラジル福井村入植 5 0 周年記念式典 12:00 記念植樹、体育館落成式 17:00 とうもろこし加工・販売所視察
8 月 6 日 (月)	10:00 バイオエタノール工場視察（ピラシカーバ市） 18:30 リオデジャネイロ市へ移動（空路）
8 月 7 日 (火)	11:00 リオデジャネイロ日本人学校視察 11:30 リオデジャネイロ市日系協会表敬訪問

日本移民先没者慰霊碑の参拝・献花

日 時 平成24年8月3日（金） 11:00～
場 所 サンパウロ市 イビラプエラ公園内
同行者 J A福井県五連会長 山田俊臣氏 他4名
 ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏
 ブラジル福井村文化体育協会会長 西川修治氏
 〃 50周年祭典委員長 山下 治氏
対応者 ブラジル日本都道府県人会連合会副会長 原島義弘氏
 〃 広報・報道担当 伊東信比古氏

内 容 ブラジルの開拓に寄与した移民先没者の慰霊碑を参拝し、今までの
ご苦勞に感謝するとともに、先没者の方々の御霊のご冥福を祈念し
た。

<慰霊碑建立の経緯>

1972年、日本海外移住家族会連合会の藤川辰雄事務局長が来伯の折、サンパウロ州奥地の日本人無縁仏を回向しながら調査し351柱を供養したが、全伯にはまだ多数の無縁仏のあることが判明したのがきっかけで、1974年、再び来伯した藤川は県連に諮って先駆者の慰霊碑建立について賛同を求めた。

県連もこれに応じて「日本移民開拓先没者慰霊碑建立管理委員会」をつくり、直ちに慰霊碑建立募金運動に乗りだし、コロニアの募金を主体に日本の家族からの寄付などもあって、1975年3月には、イビラプエラ公園内の日本館に近い場所にサンパウロ市より永代無償貸与の条件で用地を確保し、地鎮祭を行った。

完成の除幕式は1975年8月22日、日本からは日本海外移住家族会連合会の田中龍夫会長および福田赳夫副総理が出席して行われた。慰霊碑は黒御影石で、田中角栄首相の筆による「開拓先没者慰霊碑」の碑銘が入っている。

地下の霊安室には平和観音像と物故者過去帳、各県人会別の過去帳が収められている。また後には、日本から観世音菩薩像と地藏尊像が贈られた。

毎年6月18日の「移民の日」に行われる慰霊碑参拝はコロニアの公式行事だが、日本からブラジルを訪れる公式訪問者にとっても慰霊碑参拝は通例になっている。



<イビラプエラ公園の概要>

1954年にサンパウロ市制400周年を記念して造られた市営公園で、サンパウロ市内の南部に位置する。建築家のオスカー・ニーマイヤーとブルーレ・マルクスが設計した。

約120ヘクタールの広大な敷地内に、大小の池や広大な芝生の中に様々な施設がちりばめられており、その為に屋外コンサートの会場としてもよく使用される。なお、1990年に総合体育館で大相撲ブラジル場所が開催された。

主な施設

- ・日系人移民開拓先没者慰霊碑
- ・パヴィリオン・ダ・ビエンナール
(オスカー・ニーマイヤー設計の見本市会場)
- ・総合体育館 ・オベリスク (護憲革命記念塔) ・噴水
- ・ジョギングコース ・航空博物館 ・桜並木 ・日本庭園
- ・バンデイランテス記念像 (植民地時代のブラジル奥地探検隊)



サンパウロ州議会表敬訪問

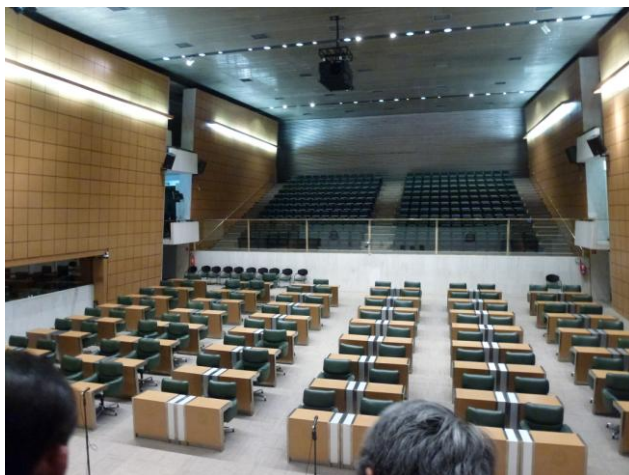
日 時 平成24年8月3日（金） 12:00～14:00
同席者 福井県知事 西川一誠氏 他3名
J A福井県五連会長 山田俊臣氏 他4名
ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏
ブラジル福井村文化体育協会会長 西川修治氏
〃 50周年祭典委員長 山下 治氏
対応者 サンパウロ州議会副議長 ジョージ羽藤氏
内 容 ①サンパウロ州議会 ジョージ羽藤副議長との意見交換
②サンパウロ州議会本会議場見学
③サンパウロ州議議会食堂を見学・昼食

<松井訪伯団長あいさつ>

- ・ブラジル福井村入植50周年記念式典への出席のため、同僚議員4名とともにサンパウロ市を訪問している。
- ・福井県からはブラジルに約330世帯、1600人余りが移住しており、一方、ブラジルからは約2500人が福井県に居住している。
- ・今後、サンパウロ州と福井県が経済、文化、スポーツ等、様々な分野で交流を発展させていくことを希望している。



その後、ジョージ羽藤副議長とブラジルにおける農業の状況、地方自治の状況等について意見交換を行った後、サンパウロ州議会本会議場および議会食堂を見学した。（議会食堂にて昼食）



旧コーヒー取引所視察

日 時 平成24年8月3日（金） 16:00～17:00

場 所 サントス市内 旧コーヒー取引所

<旧コーヒー取引所の概要>

ブラジルがコーヒー景気で沸いた19世紀から20世紀にかけて、日本人だけでなく世界中から夢を求めて様々な国籍の移民がサントス港から上陸したことにより、当時急増したコーヒー取引所を中央化したのが旧市街にある旧コーヒー取引所で、現在ではコーヒー博物館として一般に開放されている。

コーヒー農園の歴史において、初期の日本移民は非常に重要な役割を担ってきた。常設展ではブラジルにおけるコーヒーの歴史を勉強でき、ヨーロッパ各国の移民と並んで日本人移民にまつわる展示物も見ることができる。

2009年3月12日、国の歴史文化遺産に指定され、実際に使われていた農具やパスポートなどが多数展示してあり、移民たちの当時の苦労が偲ばれる。



日本移民ブラジル上陸記念碑視察

日 時 平成24年8月3日（金） 17:30～18:00

場 所 サントス市 エミサリオ・スブマリーノ公園内

＜日本移民ブラジル上陸記念碑の概要＞

1908年6月18日、笠戸丸で第1回ブラジル日本移民がサントス港に上陸し、1973年3月27日最後の移民船がこの港に上陸するまで、約24万人の日本人移民がブラジルに移住した。

このブラジル移民の原点ともいえるサントス・ボケロン海岸に1998年に「ブラジル日系移民90周年記念事業」として建立された上陸記念碑はブラジル日本都道府県人会連合会が中心となって設立した。揮毫は、橋本龍太郎元総理。（2009年に現公園内に移転した。）

このサントスは、日本移民が最初に第一歩を踏み出した場所として、日系ブラジル人の思い入れが非常に強い地域である。



コオペルコチア・アスレチッククラブとの親善交流

日 時 平成24年8月4日（土） 8：00～11：00
場 所 サンパウロ市内 当クラブ運動施設
対応者 ソロン・ヤスヒコ・タグサガワ会長 他
内 容 ①57歳以上の壮年サッカーチームの練習試合に参加
②クラブ創立70周年記念式典に参加
③ジュニアサッカーの試合見学

<70周年記念式典時の松井訪伯団長あいさつ>

- ・コオペルコチア アスレチッククラブの創立70周年をお祝いする
- ・福井県内にも貴クラブのような総合型地域スポーツクラブが24クラブ設立されており、活発に活動している。
- ・6年後には2巡目の国体開催を予定しており、「1県民1参加」を合言葉に準備を進めている。
- ・ブラジルでもサッカーワールドカップやリオ五輪など大きなスポーツ大会が予定されているが、大会の成功をお祈りする。

<コオペルコチア・アスレチッククラブの概要>

日系ブラジル版農協の「コチア産業組合」の会員制スポーツクラブとして、1942年7月18日設立。正式名称 COOPERCOTIA ATLETICO CLUBE。

数年前にコチア産業組合は経営破綻したものの、クラブは名称を残し独立した。現在、1,300 家族が会員となっており、会員数は約 3,000 人。会費は日本円換算で月額1万円。クラブでは、サッカーのほかにバレーボール、野球、テニス、ゲートボールなどの大会や練習会を開いている。

広大な敷地の中には13 テニスコート、2 サッカー場、2 野球場、プール、トレーニングジムなどが完備され、日系人のみならず、現地の人々の集いの場となっている。



ブラジル福井県文化協会主催歓迎会

日 時 平成24年8月4日(土) 12:00～14:30
場 所 サンパウロ市内 「モンタナ・グリル」
同席者 福井県知事 西川一誠氏 他3名
J A福井県五連会長 山田俊臣氏 他4名
福井商工会議所会頭 川田達男氏 他1名
福井県日伯友好協会事務局長 山本達雄氏
対応者 ブラジル福井県文化協会会長 有明正一氏 他会員約70名
内 容 来賓祝辞、勲章伝達(山田五連会長)、協力金目録贈呈、懇談

<有明会長あいさつ>

- ・西川福井県知事をはじめとする慶祝使節団の皆様を心から歓迎する。
- ・ブラジル福井村の50周年は県人会としても大きな喜びであり、誇りである。
- ・1913年に福井県からの移民がブラジルに上陸してから来年で100周年を迎える。現在、県人会の会員は417家族、1673人であるが、既に移民1世の多くは他界。福井県人の血を引く日系ブラジル人は約1万人でブラジル社会の各層で活躍している。
- ・県人会は母県との交流促進とともに、有能で逞しい次代の育成を活動の大きな目標としている。毎年、技術研修員制度はその目的に資するものであり、今後とも暖かいご支援を賜りたい。

<松井訪伯団長あいさつ>

- ・ブラジル福井県文化協会の皆様には、福井県移住者の定着安定、会員相互の親睦など多方面にわたり活動いただき、心から敬意と感謝を申し上げます。
- ・昨日、サントスの日本移民上陸記念碑を見学した。先人のご努力に思いを馳せ、胸に熱いものを感じたところである。
- ・ブラジルと日本は距離は遠くとも世界の中で特に縁の深い国。皆様方のご協力、ご努力により、今後とも相互の交流がより発展することを期待している。

＜前田日伯友好協会会長、同議連会長あいさつ＞

- ・ 4年前のブラジル移民100周年記念式典にも出席したが、その際、涙が止まらないほど感動したことが忘れられない。昔の日本人の心が皆さんの中に脈々と受け継がれていると感じている。
- ・ 現在、ブラジルはBRICsと呼ばれる新興経済国群の一角を占め、GDPは世界第8位の経済大国に成長した。日系ブラジル人の皆様には、政治、経済、文化など様々な分野でブラジルの発展に大きな貢献を果たされてこられたことに深く敬意を表する。
- ・ ブラジルと日本は「遠くても近い国」として交流を深めていく必要がある。福井県日伯友好協会としても皆さんとの絆を大事にしながら、そのお手伝いのできればと考えている。



ブラジル日本移民資料館視察

日 時 平成24年8月4日（土） 15:00～16:00
場 所 サンパウロ市内 リベルダーデ地区（東洋人街）
同行者 福井県知事 西川一誠氏 他3名
福井商工会議所会頭 川田達男氏 他1名
対応者 ブラジル日本移民史料館館長

＜ブラジル日本移民史料館館長の概要＞

1978年、移民70周年を記念して造られた資料館。

1908年第一回移民が笠戸丸で移住してからの日本移民の生活を写真や模型で分かりやすく説明している。再現された当時の住宅や、実際使われていた日用品などの展示物を見ていると、当時の移民の苦労が偲ばれる。



ブラジル福井村入植50周年記念式典

- 日 時 平成24年8月5日（日） 9：00～15：00
- 場 所 サンミゲルアルカンジョ市 コロニア・ピニャール（福井村）
- 同席者 福井県知事 西川一誠氏 他3名
J A福井県五連会長 山田俊臣氏 他4名
福井商工会議所会頭 川田達男氏 他1名
福井県日伯友好協会事務局長 山本達雄氏
- 対応者 コロニア・ピニャール福井村文化体育協会会長 西川修治氏
〃 50周年祭典委員長 山下 治氏
他会員約400名
- 内 容 ①先亡者慰霊法要
②入植50周年記念式典
（祭典委員長あいさつ、来賓祝辞、協力金贈呈、感謝状贈呈、記念品贈呈）
③記念植樹
④体育館落成式・祝賀会

<山下祭典委員長あいさつ>

- ・西川福井県知事はじめ県内各界の代表から成る慶祝使節団をお迎えできることは大きな喜びである。
- ・3家族14名が移住して以来50年、福井県、JICA、南伯農協中央会から格別のご支援、ご指導を賜り、数ある日系移住地の中でモデルとまで言われる村づくりが実現した。
- ・記念事業として待望の体育館が建設された。子供たちの健康で健全な育成に十分に活用したい。
- ・村の主産業であった葡萄栽培はここ10年程度低迷し厳しい状況であるが、後継者も育ってきており必ずや新たな産業が生み出されると信じ、2世諸君の奮起を期待している。
- ・この50周年が希望の明日を開くスタートの年となることを期待している。江戸中期の名君、上杉鷹山公の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も…」をメッセージとして贈りたい。

<松井訪伯団長あいさつ>

- ・ブラジル福井村への入植から50年の間、異郷の地で多くの困難を乗り越え、ブラジル社会に確固たる地位を築いてこられたことに深く敬意を表する。
- ・今後、食糧自給率を確保することは世界各国にとって大きな課題。農業を主産業とするブラジル福井村の皆様への期待もこれまで以上に大きくなると思われる。
- ・今回、50周年記念として体育館を建設されたが、その体育館において、ふるさと福井の子どもたちとブラジル福井村の子どもたちとの交流が深まるような取組みも期待される。
- ・この50周年を契機に、ブラジル福井村と福井県の交流、さらにはブラジルと日本との交流がより一層深まることを願っている。

<前田日伯友好協会会長、同議連会長あいさつ>

- ・多数の関係各位のご臨席のもと、入植50周年記念式典が開催されることを心からお祝い申し上げる。
- ・ブラジル福井村の歴史は、気候風土や言語が異なる中、将に悪戦苦闘の中で今日の繁栄を築いてこられたと言っても過言ではない。
- ・我々、日伯友好協会としても、皆様のこうしたご努力を風化させることなく、未来につなぐ架け橋となるよう努力していきたい。
- ・福井村と福井県との交流、さらにはブラジルと日本との交流がますます深まることを祈念してお祝いの言葉とする。





＜ブラジル福井村の概要＞

1	面 積	第 1 ピニャール	7 6 2 ha
		第 2 ピニャール	1 8 0 ha
		計	9 4 2 ha

2	在 住 者	福 井 県 人	1 9 世 帯	人 口	2 1 8 名
		他 県 人	3 3 世 帯		

3 産 業

農業中心で果樹（イタリアぶどうが主産物）、野菜の栽培、養鶏、他に柿、ビワ、ポンカン、アテモヤ等。

新しい農産物として、デコポンの生産を開始。隣村に派遣された J I C A シニアボランティア（九州出身）の指導を受けた。派遣期間 2 年のところを 6 年に延長してもらい、植えてから実が成るまで 3 年、実が成ってから 3 年指導を受け、改良した。

従事者は比較的若い（30～50代）。ブラジルでの価格は安いので、輸出を目指している。海外技術研修員 O B が農業の後継者となっている。

とうもろこし加工・販売所視察

日 時 平成24年8月5日（日） 17:00～18:00

場 所 アルジャ市郊外

内 容 小寺議員の知人である西村ジュンコ氏（技術研修員OB）の案内で、アルジャ市郊外のとうもろこし加工・販売所を視察。

ドライブインのような店内には、とうもろこしを加工した様々な商品（ケーキ、ジュース、アイスクリーム、ちまき、スイートコーンなど）が販売され、店内でも飲食可能となっている。

また、店舗裏はとうもろこしの加工施設となっていた。



バイオエタノール工場視察

日 時 平成24年8月6日（月） 10:00～12:00
場 所 ピラシカーバ市 バイオエタノール企業「Raizen」コストピント工場
対応者 広報企画担当 デボラ・バロス氏（女性）
製造工程担当 ペドロ氏
安全対策担当 クロビス氏
農場部門担当 ピカルド氏
内 容 ①会社概要説明
②工場内各プラント見学（砂糖きび搬入、砂糖きび搾汁、エタノール製造の各工程）

<松井訪伯団長あいさつ>

- ・日本では、去年の福島第一原発事故を受けて、今後の国のエネルギー政策の方向性について議論が進められているが、多くの原発が立地する福井県にとっても県の将来を左右する重要な問題である。
- ・こうした中、再生可能エネルギーの1つであるバイオエタノールの生産現場を見学できることは、今後の議員活動に大きな参考となるものと考えている。

<会社概要>

会社名：Raizen（ハイゼン）

※以前は Cosan（コザン）という社名であったが、シェル石油との合併により現社名に変更。副社長は日系の水谷ペードロ氏。

事業内容

- ・このコストピント工場はグループ3番目の工場。農場部門で2,500人、プラントに400人が働いている。
- ・1日に24,000t、年間400万tの砂糖きびを収穫し、搾汁したものは全て砂糖製造に使用し、年間30万tの砂糖を製造。
- ・砂糖製造の副産物であるメオ（蜜ろう）に加水、発酵させエタノールを年間8,000万ℓ製造。

- 8,000 万ℓ の内訳は、無水アルコール 3,300 万ℓ 、中性アルコール 2,800 万ℓ 、燃料用アルコール 1,500 万ℓ 、工業用アルコール 400 万ℓ 。工業用アルコールは日本へ多く輸出している。
- 工場内のコジェネについては、25MWの発電機が3台あり、50MWは外部に売電。25MWを製造工程に使用し、全プラントの電力を自工場で賄っている。
- 2017年までに砂糖きび収穫作業の全自動化を予定している。
- エタノール製造工程には2つの発酵システムがあり、それぞれ独立している。発酵の初期段階でふくらし粉を使用。遠心分離機で分離し再利用。次の段階で酵母を入れる。
- アルコールの種類により蒸留工程を2～4回行う。技術改善により使用する水の量は以前の1／2に低減。



リオデジャネイロ日本人学校視察 リオデジャネイロ市日系協会表敬訪問

日 時 平成24年8月7日（火） 10:00～11:30

場 所 リオデジャネイロ市内

対応者 リオデジャネイロ日本人学校校長 藤内 博氏

同行者 リオデジャネイロ州日伯文化体育連盟理事長 鹿田明義氏

内 容 ①リオ日本人学校 藤内校長との意見交換

②リオ市日系協会訪問（会長不在の為、施設見学のみ）

<藤内校長あいさつ>

- ・1980年には406人の児童生徒がいたが、現在は13名に激減。
- ・元の校舎周辺は治安が悪かったため、3年前に日系協会敷地内の現校舎に仮移転した。日本語モデル校も同敷地内にあり、交流・連携している。
- ・子供1人1人にしっかりと目を向け、子供の良さを引き出す教育を目指している。日本より遥かに丁寧な教育が実践できていると自負している。いじめ問題は全くない。

<松井訪伯団長あいさつ>

- ・福井県からはブラジルに約330世帯、1600人余りが移住しており、一方、ブラジルからは約2500人が福井県に居住している。
- ・今後、ブラジルと福井県が経済、文化、スポーツ等、様々な分野で交流を発展させていくことを希望している。
- ・リオデジャネイロ市では4年後に五輪が開催される。大会の成功をお祈りしている。リオの次は東京が立候補しているのでご協力いただければ幸いである。

<意見交換概要>

- ・日産がリオの近くに小型車製造工場の建設を決定。技術者家族がリオに在住することになると数百名単位で児童生徒が増加する見込み。現施設では対応困難。
- ・400人余りの児童生徒がいた時期は石川島播磨が進出していたが、同

社が撤退後、生徒が減少。地域経済の状況で学校運営が大きく影響を受ける。

- 5世まで含めるとリオには約15000人の日系ブラジル人が在住しているが、これらの子弟はブラジルの学校に行く。日本人学校は中学までしかなく、また、ブラジルでは学校と認められていない。そのため、日本人学校を卒業した子供は日本に帰国する者が多い。
- 日本の進出企業が優秀な日系ブラジル人を採用する姿勢が必要。リオには生産現場がなく、進出企業は商社が多いため難しい。製造業が多いサンパウロでは対応できている。
- 日本企業は70年代に多く進出してきたが、地に足のついた経営をせず、すぐに撤退してしまった。その点、欧米企業は人材確保の点で長い目で投資している。

